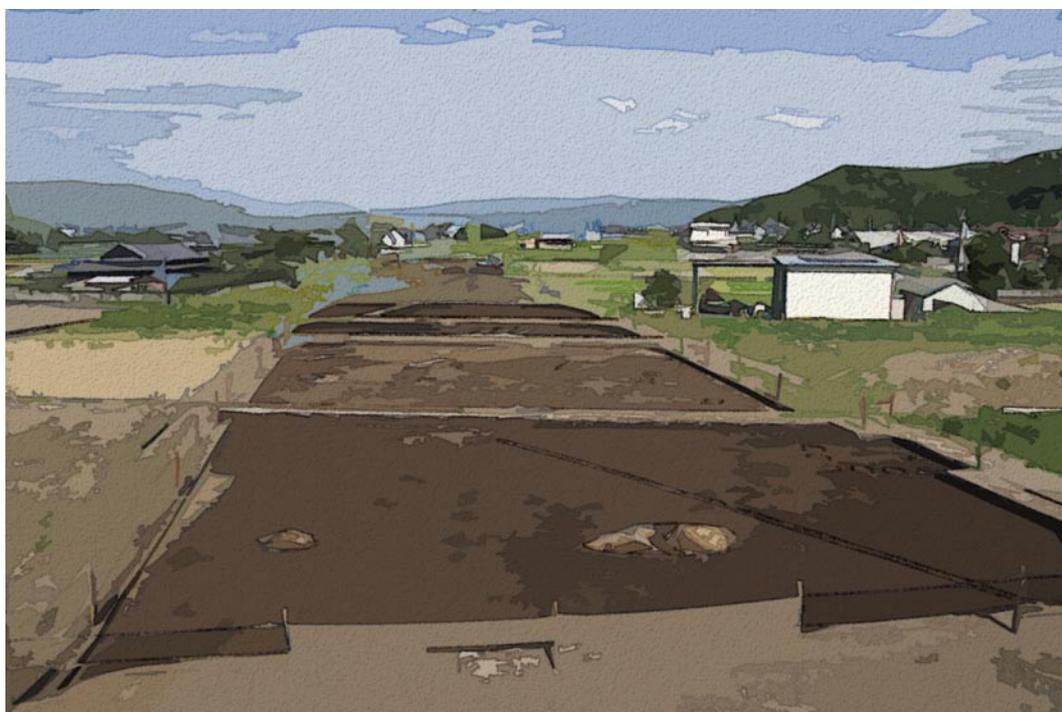


平成19年度  
国道195号道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査  
士島田遺跡  
現地説明会資料



日時 記者発表 平成19年10月19日(金) 午前11時～  
現地説明会 平成19年10月21日(日) 午後1時30分～3時  
場所 南国市小籠の発掘調査現場

高知県教育委員会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

# 士島田遺跡発掘調査概要

## 1. はじめに

士島田遺跡<sup>ししまだ</sup>の発掘調査は、高知県が計画している国道195号道路改築工事(あけぼの道路建設)により、工事によって影響を受ける部分について事前の発掘調査を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的としています。なお、本年度は、調査対象地の西側部分(I区~III区)について調査を進めています。

## 2. 士島田遺跡の概要

士島田遺跡は、南国市小籠に所在する弥生~古代・中世~近世の遺物散布地で、試掘調査の結果、弥生~古代・中世にかけての遺構等が存在することが確認されています。遺跡は、古物部川が形成した古期扇状地(「長岡台地」と呼称されています。)上に立地しています。

周辺には、弥生時代後期~末の拠点集落跡である小籠遺跡<sup>ここめ</sup>や古墳時代の後期古墳が、また奈良時代の国分僧寺である土佐国分寺跡や平安時代の野中廃寺跡などの主要な遺跡が所在しています。

## 3. 調査対象地

南国市小籠



土師器杯蓋(1/2)

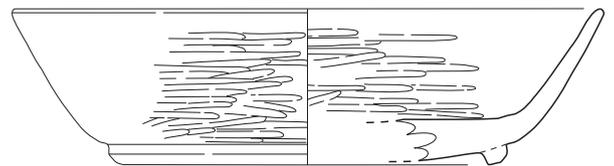
## 4. 調査体制

調査委託者 高知県

調査実施機関 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

## 5. 調査期間

平成19年5月25日~平成19年12月21日(予定)

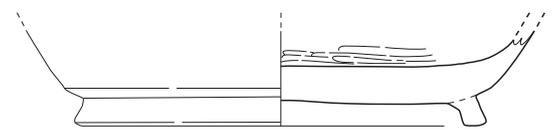


土師器杯身(1/2)

## 6. 調査面積

調査対象面積 約23,000㎡

調査予定面積 約5,000㎡



土師器杯身(1/2)

## 7. 調査結果

### 検出遺構

古代：掘立柱建物跡7棟、溝跡2条、竪穴遺構2基、畝状遺構4条

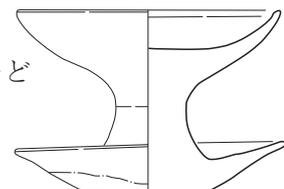
中世：溝跡2条

近世：掘立柱建物跡2棟、溝跡、土坑、ハンダ土坑、井戸、柱穴、ピットなど

その他：倒木痕跡

### 出土遺物

弥生土器、須恵器、土師器、砥石、鉄製品(焼コテ)、近世陶磁器など



近世陶器灯明皿(1/2)

## 8. 調査成果

調査対象地の西側部分に該当する調査区(I・II区)で奈良時代後半から平安時代初頭(8世紀後半～9世紀前半頃)に位置づけられる企画性のある掘立柱建物跡群等が検出されました。建物跡の柱穴はいずれも方形の掘形を持ち、一辺約1mと大形のものもみられます。建物跡は3間×5間(東西棟)を中心に、2間×4間(南北棟)・2間×3間(東西棟)や倉庫と考えられる2間×3間の総柱建物跡(南北棟)などが確認されています。この内の3棟からは雨落溝も検出されました。また、隣接してカマドが設置された長方形竪穴遺構や畑跡の可能性のある畝状遺構、溝跡などもみられます。

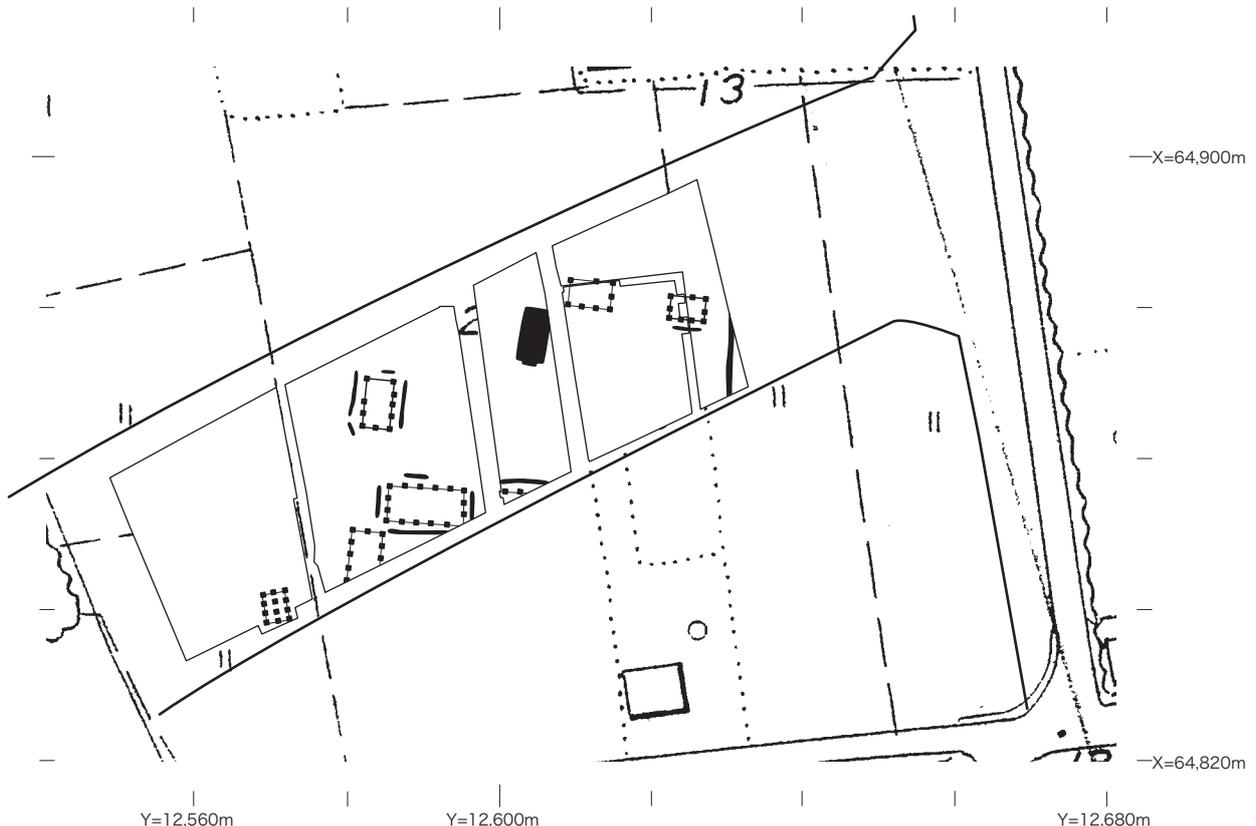
一方、市道東側の調査区(III区)からは、主に近世の掘立柱建物跡やハンダ土坑、井戸、溝跡、土坑、柱穴などが検出され、近世農村の一面であったことが判明しました。

## 9. まとめ

今回の調査では、古代の掘立柱建物跡群等が検出され、土佐の古代史を紐解く上で大変貴重な資料を得ることができました。土島田遺跡の北には国分川を挟んで土佐国衙跡や土佐国分寺跡、小高い丘を越した南には平安時代前半頃の古代寺院跡である野中廃寺跡が所在しており、古代の主要な遺跡を結ぶ重要な地点であったことが窺えます。

遺跡の性格としては、企画性のある建物配置、建物構造から考えて一般の建物ではなく官衙に関連するものと判断されることから平安期にみえる長岡郡九郷のうち、<sup>そがべのこう</sup>宗部郷の郷家であった可能性が高いものと思われます。

調査の進行にあたり格段のご協力をいただきました地元の方々、高知県中央東土木事務所、高知県教育委員会、南国市並びに南国市教育委員会、関係者の皆様方に心からお礼申し上げます。



古代の遺構配置図(1/1,000)



古代の総柱掘立柱建物跡(北より)



古代の掘立柱建物跡(北より)



古代の竪穴遺構(南より)



竪穴遺構から出土した焼コテ(西より)



倒木痕跡(西より)



近世の掘立柱建物跡(南より)



東の調査区(Ⅲ区)遺構完掘状態(西より)